

ホクコースミチオン[®]水和剤40

■種類名：MEP水和剤
 ■有効成分：MEP 40.0%
 ■PRTR法指定物質：MEP〔第1種〕 40.0%

■登録番号：第7737号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1966.09.17
 ■性状：淡褐色水和性粉末 45μm以下
 ■有効年限：4年
 ■包装：500g×20袋

【特長】

- 広範囲の害虫に効果を示す汎用性殺虫剤スミチオンの水和剤。
- 果樹の諸害虫に適用がある。

【適用内容】(2015年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
りんご	モモシクイガ、ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ アブラムシ類、リンゴスムシ	800~1200	200~700	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	ギンモンハモグリガ カメムシ類	800~1000							
なし(有袋栽培)	ナシヒメシクイ クワコナカイガラムシ ハマキムシ類、アブラムシ類	800~1200		収穫14日前まで	6回以内			6回以内	
	ナシチビガ、ナシキジラミ カメムシ類、ナシグンバイ	800~1000							
なし(無袋栽培)	ナシヒメシクイ クワコナカイガラムシ ハマキムシ類、アブラムシ類	800~1200		収穫21日前まで					
	ナシチビガ、ナシキジラミ カメムシ類、ナシグンバイ	800~1000							
もも	ナシヒメシクイ(心折防止) シクイムシ類、アブラムシ類 モモハモグリガ、ハマキムシ類	800~1200		収穫3日前まで					6回以内(樹幹処理は1回以内)
	カメムシ類								
大粒種ぶどう	ブドウトラカミキリ フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類成虫 アカガネサルハムシ ブドウスカシバ	800~1000		収穫30日前まで	2回以内			4回以内(収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)	
	クワコナカイガラムシ	800~1200							
小粒種ぶどう	ブドウトラカミキリ フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類成虫 アカガネサルハムシ ブドウスカシバ	800~1000	収穫90日前まで						
	クワコナカイガラムシ	800~1200							
おうとう	ケムシ類	800	収穫21日前まで	2回以内(樹幹処理及び灌注処理は合計1回以内)					
かき	カキノヘタムシガ フジコナカイガラムシ	800~1200	収穫45日前まで	3回以内	3回以内(樹幹処理は2回以内)				
	オオワタコナカイガラムシ幼虫	800							
	カメムシ類、イラガ類	800~1000							
	ドウガネブイブイ成虫	1000							
稲	ニカメイチュウ第1世代	40	3	収穫21日前まで	2回以内	3回以内(稲もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)			
	カメムシ類	1000	60~150				空中散布 散布		

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用は、できるだけ使用の直前に混合すること。
- あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- りんごの旭種及びその近縁種には薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- ももの初期散布（5～6月）には薬害を生ずることもあるので注意すること。
- なしの早生赤種には薬害を生ずるので使用は避けること。
- 果樹のカメムシ類に使用する場合には、発生に応じて所定範囲内で、繰り返し散布すること。
- 本剤を大型散布機（ヘリコプターなど）で使用する場合は、各散布機種の散布基準に従って実施すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- ❖ 粉末は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農業用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
空中散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。